

■ 研究ノート

## 和歌山県白浜町での事例研究対象の抽出 — 地域活性化計画の進捗状況確認を応用した地域特徴点分析手法の開発 —

服部 利幸\*

### 【要旨】

本研究では、地域の課題や特徴点を導出するための簡易的な分析手法を開発するための第一段階として、和歌山県白浜町の4つの地域活性化計画または施策を抽出した。この方法は、具体的な計画等の達成度分析、その結果の大きな原因の特定、その背景の解明という3つの段階から構成される。これらの段階は、他の確立された手法と類似する。この簡易分析法では、既存の計画の結果やプロセスを地域特性抽出の材料として用いる。既存の計画を利用することで、対象となる地域の潜在的な特徴を効率的に把握することができると推測する。本稿では、和歌山県白浜町の計画を事例として、地域振興のための観光振興やIT企業誘致のための計画・施策の紹介と解説を行う。特徴点抽出の試みは、今後の研究で進展させる予定である。

キーワード：地域活性化計画、地域特性、白浜町

### はじめに

地方自治体において検討、策定、実行された地域振興に関する計画や施策の現状を分析することで、その地域の有する特徴点（課題、強み、弱みなど）を推定し、抽出する手法の確立を目指す。一般的にいわれるPDCAサイクル（PLAN・DO・CHECK・ACTION）はプロジェクトや事業遂行において基本となる改善方法であり、品質管理や業務管理などから行政機関の計画遂行にも利用されている。本稿での提案は、PDCAサイクルをそのサイクルの枠外で利用できないかという点であり、まだ結論に至っていない。ここでは、その可能性について、本稿以降で検討するにあたり、対象となる地域と計画または施策を提示するのみである。

和歌山県白浜町<sup>1)</sup>に注目する。白浜町の地域振興のために策定された観光促進やIT企業誘致に関する計画や施策の実施、実行状況を分析することで、潜在的な特徴点の抽出を試みたい。この分析手法確立の目的は、行政業務の能力評価や進捗状況を批判することを目的とするものではなく、地域にある潜在的な特徴点（課題、強み、弱みなど）を抽出するための試みである。このため、繰り返すが、一システム内のPDCAサイクルとは言い難い。今後、本稿以降で進める予定の調査・分析結果では、対象計画や施策の遂行に寄与するというよりも、潜在的な特徴点抽出に応用できるのか否か、その可能性を探る。今後の調査・分析対象として、次の4つの計画または施策を挙げる。

平成28年に策定された「白浜温泉街活性化構想推進計画」では、35の具体的施策を示している。本稿では、その紹介を行い、潜在的特徴点抽出の足がかりとしたい。まだ策定後

---

\* 立命館大学政策科学部 教授

間もないが、令和3年9月発表された「白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画」では、過疎地の潜在的特徴点抽出の題材として今後の分析対象とした。ナイトタイムエコノミーの事例は、最近の施策であり、民間企業も積極的に取り組んだ事例である。IT企業の誘致施策に関しては、和歌山県および白浜町の施策を足がかりに、潜在的特徴点の抽出を今後試みる。充実度が高い手厚い施策であるが、その必要性和適応期間後の対策から、潜在的な特徴点の抽出とその本質に迫りたい。

## I. 潜在的特徴点抽出対象としての白浜温泉街活性化構想推進計画

白浜温泉街活性化構想推進計画<sup>2)</sup>は白浜町観光課編集の冊子として白浜町から発行されている。その構成は、I 計画策定の背景と目的、II 白浜温泉街の現状と課題、III 方向性と基本目標、IV 施策と展開、V 計画の進め方、資料編であり、豊富なデータに基づき、施策が提案されている。

### I. 1 概要と計画の方向性

白浜町では、観光地間の競争激化や地域社会の維持・存続が課題となっていることから、2016年3月に白浜温泉街活性化のための計画を策定した。この白浜温泉街活性化構想推進計画では、対象エリアを定め、白浜温泉の活性化に向けた取り組みの「方向性」、「4つの基本目標」、基本目標にもとづく「35の具体的施策」と「11の重点取組施策」、「計画の進め方」を示している。

計画の方向性としては、「魅力ある通年型の観光を目指す」としている。これは交流人口の拡大、消費金額の増加そして繁盛期の長期化を踏まえた方向性である。この方向性の基本目標として、1 戦略的観光の推進、2 来訪者の増加と再訪率の向上、3 滞在時間の延長と消費単価の向上、そして4 事業者や住民の意識醸成を掲げている。

### I. 2 4つの基本目標

白浜温泉街活性化構想推進計画の4つの基本目標を要約すれば、まず、白浜温泉の観光地としての魅力を高めるため、体験型観光を推進し、周辺観光地との連携を強化する。そのために訪問者満足度調査、データ分析を実施し、マーケティング戦略を展開する。次に、四季折々の魅力を活かし、冬季でも温暖な気候を生かしたプランを展開し、再訪や新規訪問者の増加を目指す。また、高速道路の延伸によるアクセス向上を受けて、観光客の滞在時間を延ばすために食の魅力や街歩きを促進し、消費単価を向上させる取り組みを開発する。最後に、地域全体の協力体制を構築し、リーダーシップを持った人材の育成やホスピタリティの向上を通じて、組織的な観光地マネジメントを強化し、観光活性化を目指すとする。データ分析結果を踏まえた体験型観光の推進と周辺観光地の連携、通年観光と観光客滞在時間増加のための観光資源開発、そして地域の組織化と人材の育成と置き換えることができる。

以下、本計画の基本目標を抜粋したものを掲載する。

### 1 戦略的観光の推進

あまたある観光地の中から「選ばれる観光地」を目指すため、「体験型観光」を推進するなど白浜温泉の魅力向上を図るとともに、椿温泉、日置川地域、さらには熊野古道や高野山といった周辺観光地との連携を強化する。また、宿泊稼働率や施設利用者数といった観光に関する基礎調査や来訪者満足度調査を継続的に実施し、これらのデータを分析することにより、マーケティングに有効活用する。

### 2 来訪者の増加と再訪率の向上

四季折々の白浜を楽しめる仕掛けづくり、とりわけ冬季でも温暖な白浜の気候を活かした取り組みを進めるほか、かつて新婚旅行のメッカであった白浜温泉への再訪を促すキャンペーン、MICE・スポーツ合宿の誘致、インバウンド対応といった取り組みを併せて進めることで、新規来訪者の増加と再訪率の向上を図る。

### 3 滞在時間の延長と消費単価の向上

高速道路の延伸に伴いアクセス性が向上したことにより増加する観光客が、温泉街の魅力を実感でき長時間滞在できる仕掛けとして、「食」の魅力強化、まち歩き促進、二次交通の充実などをはかり、消費単価の向上につなげる。

### 4 事業者や住民の意識醸成

観光地としての魅力を高めるには、行政や観光関連団体、事業者や地域住民、農林漁業団体、NPO といった多様な主体が参画し協働していくことが重要である。また、白浜温泉街の核となり、牽引役となる人材が望まれる。さらに、観光地として高い評価を得るためには、ホスピタリティが不可欠であり、これら主体が一丸となって観光地マネジメントができるしくみづくりを行い、観光活性化を目指す。

以上の4つの基本目標の達成に向け、35の具体的施策（表1）を取りまとめ、このうち町がイニシアチブを執って取り組む11の施策を重点取組施策とした。表の下線部がその施策である。

表1. 白浜温泉街活性化構想推進計画の基本目標と具体的施策

基本目標	具体的施策
(1)戦略的観光の推進	① 日本三古湯周遊プラン
	② 白浜を拠点とした熊野古道などとの連携
	③ <u>白浜町内3温泉地の周遊</u>
	④ 体験型メニューの拡充
	⑤ 首都圏・海外への情報発信強化とプロモーション
	⑥ <u>観光データの分析と活用によるマーケティング</u>
	⑦ 白良浜(海水浴場)の施設整備
	⑧ 海洋レジャー活動の推進と海域利用ルールの策定
	⑨ 円月島周辺の施設整備

	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩ 海岸線沿い遊歩道の改修(白良浜～権現崎～御船足湯)</li> <li>⑪ 海岸線沿い遊歩道の新設(白良浜～湯崎漁港)</li> <li>⑫ 観光案内看板の統一化</li> <li>⑬ 南紀白浜温泉ガイドブックの作成</li> <li>⑭ 商店街活性化事業の支援</li> <li>⑮ 都市公園、三段壁、千畳敷の整備・保全</li> <li>⑯ 「道の駅」の登録</li> </ul>
(2)来訪者の増加と再訪率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑰ 冬季における温泉記念日の設定</li> <li>⑱ リメンバー白浜キャンペーン</li> <li>⑲ M I C E ・スポーツ合宿の誘致</li> <li>⑳ 各種イベントの開催・誘致と検証</li> <li>㉑ 和歌山市からの無料送迎バス運行</li> <li>㉒ インバウンド受入体制づくり</li> <li>㉓ 自然景観の保全と活用</li> </ul>
(3)滞在時間の延長と消費単価の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉔ ブランド食材「クエ」の魅力発信</li> <li>㉕ 白浜オリジナルグルメの開発</li> <li>㉖ 女性をターゲットとしたカフェ、雑貨店等の充実</li> <li>㉗ まち歩きのおもしろづくり</li> <li>㉘ 温泉の歴史紹介と源泉の表示</li> <li>㉙ 交通利便性を高めるおもしろづくり</li> <li>㉚ まちめぐりを促進する魅力ある新たな交通手段の導入</li> <li>㉛ 円月島周辺施設セット入場券の発行</li> </ul>
(4)事業者や住民の意識醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉜ 白浜の魅力発見プロジェクト</li> <li>㉝ 観光振興の核となる人材の育成</li> <li>㉞ 白浜の活性化を持続的に担いえる組織の設立</li> <li>㉟ 観光地における防災への意識向上</li> </ul>

出所) 白浜温泉街活性化構想推進計画より作成

### I. 3 具体的施策

上述の4つの基本目標の達成に向け、35の具体的施策(表1)が取りまとめられ、このうち町がイニシアチブを執って取り組む11の施策を重点取組施策としている。具体的施策には、基本目標、関連目標、施策名、施策概要、実施主体および期間が記録されている。実施主体は、町、団体、事業者、住民に区分されており、期間は短期を3年未満、中期を3年以上5年未満、長期を5年以上としている。このような項目が定められた施策であるため、その進捗、成果や是非の確認が可能である。その結果からどのようなPDCAサイクルの枠外の潜在的特徴点が存在するのか、今後の検討課題としたい。

### II. 潜在的特徴点抽出対象としてのナイトタイムエコノミー関係イベント

ナイトタイムエコノミー活性化が全国的な政策として取り上げられている。白浜町の二

つの事例を紹介する。

## Ⅱ. 1 ナイトタイムエコノミー促進政策の意義と背景の解説

観光庁観光資源課が平成31年(2019年)に発行したナイトタイムエコノミー推進に向けたナレッジ集<sup>3)</sup>によると、ナイトタイムエコノミーとは、18時から翌日朝6時までの時間帯の活動を指し、その目的は地域の状況に応じた夜間の楽しみ方を拡充し、消費活動や魅力創出をすることで、経済効果を高めることとしている。

ナレッジ集は観光業と国内外からの観光客に照準を当てたものである。その作成の背景の解説において、「ナイトタイムエコノミー」は、文化・経済の両面から地域を活性化させるテーマとし、訪日外国人含めた訪問客の滞在時間も増え、消費拡大が望めるとする。また、夜間に営業する事業者にとっては、既存の資産を活用し、「夜間」という新たな時間市場を開拓することにより事業を拡大する機会となるとする。

同資料では、「ナイトタイムエコノミー」推進に向けた課題として、次の7つと夜間統計を挙げている。コンテンツの拡充、場の整備、交通アクセス、安心安全の確保、プロモーション、推進体制、労働である。

コンテンツの拡充とは、ニーズを捉えたコンテンツの開発、開拓、活用を示し、場の整備とは、これらコンテンツを開催する施設等の適切な整備及び活用を意味する。交通アクセスは施設等へ快適に夜間観光が楽しめる交通インフラの整備を言う。夜間であるために、生活者、観光客、事業者、従業員等すべての関係者が安心安全に楽しめる環境整備は重要であるとする。魅力的なコンテンツであったとしても、観光客とコンテンツの特性に応じたプロモーションが必要である。住民を含む地域全体を巻き込む推進体制の整備が求められる。また、ナイトタイムエコノミーを支えるための労働力の確保、維持、適切な処遇が必要であるとする。この7つの顕在化した一般的課題を利用し、白浜町の潜在的特徴点抽出の叩き台とし、今後、以下の白浜の事例の分析を試みたい。以下、白浜町におけるナイトタイムエコノミーの事例を挙げる。

## Ⅱ. 2 白浜町のナイトタイムエコノミーの事例 アドベンチャーワールド

アドベンチャーワールド<sup>4)</sup>では2023年12月23日から2024年2月24日の期間において、「ナイトサファリ 夜の動物はなにしてる?」というテーマを掲げ、夜の特別営業を行った。昼間の通常営業終了後17時より、アドベンチャーワールド内のイベント開催エリアに限定し、飼育スタッフによる動物の夜間の生態・行動のライブ解説や、大型草食動物や肉食動物の大迫力の特別なシーンを観察できるなど特別な体験を楽しめるとする。

### ナイトサファリハイキング

約15種類の動物が潜む夜のサファリを自由に歩いて散策できるツアー。夕方から夜にかけて活発に動く動物たちを観察しながら、ホワイトタイガー・ライオン・シロサイ・ゴールデンターキンの4つのポイントで飼育スタッフによるライブ解説が行われる。また、サファリワールド内の各所でクエストをクリアする体験型イベント「どうぶつ

クエストアドベンチャー」も行われる。

#### サファリアドベンチャー

サファリレストランで夕食を楽しんだ後、ツアーガイドスタッフが運転するガイドつき車両に乗り込み、夜のサファリを観覧する。サファリワールドの1日の最後を体験でき、ホワイトタイガー、ライオン、シロサイがサファリから寝室へと帰るシーンなどを観察できる。

#### パンダツアー

「夜のパンダなにしてる？」とし、パンダたちの普段は見られない夜の様子が観察できるほか、飼育スタッフによる特別レクチャーが行われる。

#### ペンギンツアー

夜の海獣館で、約250羽のペンギンたちに囲まれながら、鳴き声に耳をすます非日常空間を体験する。それぞれ個性を持つペンギンたちの行動について飼育スタッフからレクチャーを受ける。

アドベンチャーワールドの2024年冬の事例は、訪日外国人を対象にしたものというよりも、国内観光客に対して、特別感や非日常感を醸し出す取り組みである。また、解説、レクチャーそして体験というように娯楽性よりも学びの要素を組み込んでいる。時間の単なる延長ではなく、経営資源の解釈の変更し、多様性を見出した試みである。このような昼間・夜間という時間の区分そして経営資源の解釈の変更は観光のさらなる飛躍的発展につながる可能性を有する。

この施策は行政機関による施策ではない。アドベンチャーワールドの運営会社である株式会社アワーズの企画である。ナイトタイムエコノミーは、その運営に時として、地域や行政機関の協力も必要となる。本企画の検討・計画・運営プロセスを分析することで、地域特徴点の抽出を今後、試みる。

### II. 3 白浜町のナイトタイムエコノミーの事例 白良浜ライトパレード実行委員会

白砂の浜を光と音で彩るライトアッププロジェクト「SHIRARAHAMA LIGHT PARADE by FeStA LuCe<sup>6)</sup>」が2023年10月28日より開催されている。海水浴を中心とした夏の観光地のイメージが強い白良浜のビーチであるが、夏以外の季節を観光客にアピールするために、白浜町、南紀白浜観光協会、町商工会、白浜温泉旅館協同組合が白良浜ライトパレード実行委員会を作り、主催・運営管理を行う。さらに、このプロジェクトには株式会社タカショーデジテックがプロデュース企業として、また株式会社アワーズが協力協賛企業として参画する。ライトアップ演出はフェスタ・ルーチェ実行委員会が担う。

昼間に対して夜間と時間帯、夏という季節に対して秋冬という閑散期というような時間的季節的に有効利用されていない観光資源に焦点が当てられたイベントである。夏の昼間の代表的な観光資源である白良浜のビーチをベースとした観光資源の有効活用でもある。

このライトアッププロジェクトは白浜町内の観光資源の有効活用において、行政、地元、民間企業の協力が必須である。また、浜辺という公共的な地形を利用するために、各種調整も複雑であろう。その計画から開催までのプロセスより、達成した点、未達点、妥協点などの存在が想像できる。そのような点より、今後、地域の潜在的特徴点を導出したい。

## Ⅱ. 4 ナイトタイムエコノミーにおける3つのアプローチ

ナイトタイムエコノミーの視点より3つの観光資源開発のアプローチが想定できる。1 従来から存在する観光資源から夜間にその可能性と価値を見出すアプローチ（既存昼間観光資源の夜間利用）、2 昼間は特に観光資源として価値を有していなかった対象に新たにその可能性と価値を見出すアプローチ（新規夜間観光資源の開発）、3 従来からナイトタイムエコノミーの中心であった観光資源の活性化（既存夜間観光資源の活性化）である。白浜町の温暖な気候は夜間活動にプラスに働く要素である。白浜町の海や山という自然にもナイトタイムエコノミーの潜在的可能性がある。

白良浜のビーチの夜間イベントは既存昼間観光資源の夜間利用に該当する。アドベンチャーワールドの試みは営業終了の施設内で見出された、新規夜間観光資源の開発の一例である。温泉街は従来から白浜町のナイトタイムエコノミーの象徴であった。この温泉街の再活用は、既存夜間観光資源の活性化アプローチといえよう。

観光資源開発は、地域の利害調整を必要とする場合が多い。上記のそれぞれの開発アプローチの視点が今後の研究で試みたい潜在的特徴点探索に活用できるか検討したい。

## Ⅲ. 潜在的特徴点抽出対象としての白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画

日置川とその川岸にある町並みは紀伊山地からの木材の集積地の面影を残す重要な歴史的資源である。

### Ⅲ. 1 白浜町日置川地域の概況

白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画<sup>7)</sup>に日置川地域の概況が記述されている。その概況は以下のようになる。

#### 自然条件

日置川地域は東西 21 km、南北約 17 km、総面積 136.3km<sup>2</sup> で、和歌山県西牟婁郡の中央に位置する。地域は山林が 88.0% を占め、中央部を流れる日置川は流域面積 414 平方キロ、流路延長 79 km で、平地はほぼ河口周辺に限られる。気候は温暖で多雨であり、冬期無霜地帯で、年平均気温は海岸部が約 17℃、山間部は 1.5℃ 低い。年間降雨量は 2,000 mm を超える。

#### 歴史的条件

明治 22 年に市町村制施行により、日置村、三舞村、川添村が成立した。大正 13 年に

日置村が町制施行し、昭和 31 年に日置町、三舞村、川添村が合併して旧日置川町となった。平成 18 年 3 月、行政運営の効率化と基盤の強化を目指し、旧白浜町と合併した。

#### 社会的条件

令和 3 年 3 月末時点での人口は 3,044 人、世帯数は 1,683 戸で、人口密度は低い 22 人 / km<sup>2</sup> である。人口は昭和 40 年をピークに減少しており、若年層の流出が進み高齢化が進行している。

#### 経済的条件

就業人口は昭和 35 年に 3,859 人でピークを迎えた後、人口減少に伴い平成 27 年には 1,376 人に減少した。第 1 次産業は昭和 45 年に 1,188 人と就業人口の 37.9% を占めていたが、平成 27 年には 13.3% に減少し、第 3 次産業が 64.3% を占めている。

### Ⅲ. 2 白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画

令和 3 年（2021 年）4 月に施行された「過疎地域の持続的な発展の支援に関する特別措置法」の前文では、過疎地域は、食料、水、エネルギーの供給や自然災害の防止、生物多様性の維持など様々な機能を有し、これが国土の多様性を支え、国民の生活に豊かさをもたらしているとする。過疎地域の人口減少や少子高齢化が地域社会の課題に対応するため、過疎地域への移住者増加や技術革新、情報通信技術の活用などを促進し、持続可能な地域社会の形成と地域資源の活用に向けて全力で取り組むことが重要とされ、そのためにこの法律が制定されたとする。

「過疎地域の持続的な発展の支援に関する特別措置法」の施行に引き続き、白浜町では「白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画」を令和 3 年（2021 年）9 月に策定した。この計画により、製造業、情報サービス業、農林水産物等販売業、旅館業などの振興すべき業種が指定され、事業者は町税などの優遇措置を受けるために「産業振興機械等の取得等に係る確認申請書」を提出する。

白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画において、日置川地域の持続的な発展の基本方針は、豊かな自然環境を活かした農林漁業と製材業を基盤にし、体験型観光や地域資源を生かした振興に注力するとし、白浜町の温泉街等の都市的な観光拠点と当地の観光資源を結びつけ、世界遺産としての熊野古道を有する地域として国際的にアピールすることを目標としている。

まちづくりにおいては、経済の活性化と共に住民の生活を快適かつ安心して暮らせる環境づくりが重要であり、地域コミュニティを中心にしたつながりを強化し、少子高齢化や防災対策にも積極的に取り組む方針を掲げている。

具体的な方針として、①参画・協働と連携・交流の促進、②産業振興と雇用確保、③保健・医療・福祉の充実、④生活環境の整備・充実、⑤地域基盤の整備・充実、⑥教育・文化の充実の 6 項目を挙げ、それぞれの領域で具体的な施策を展開する計画となっている。また、人口減少に歯止めをかけるための基本目標や戦略も定められており、5 年間の計画期



間を設定している。

### Ⅲ. 3 歴史的資源としての日置

白浜町においても、日置川河口右岸に位置する日置は、漁業と言うよりも木材の集散地として栄えた町であり、歴史的な街並みが残されている。現在、政府によって立ち上げられた、歴史的資源を活用した観光まちづくり官民連携推進チームが確認した取り組み<sup>8)</sup>のうち、和歌山県下の事例として、有田郡湯浅町、有田郡広川町、伊都郡九度山町および東牟婁郡串本町が挙げられており、日置の事例は掲載されていない。同チームの「歴史的資源を活用した観光まちづくり成功事例集<sup>9)</sup>」にも掲載されていない。

この日置の街並みが白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画や歴史的資源を活用した観光まちづくり官民連携推進チームが関わった和歌山県下の事例の取り組みに含まれていない点に興味を覚える。白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画の進行状況の分析と並行しながら、日置の街並みが歴史的観光資源として成立するのか、今後、調査を進めていく。

### Ⅳ. 潜在的特徴点抽出対象としての IT 企業誘致

白浜町における IT 企業誘致に関して、白浜町の広報資料「IT Business Office In Shirahama」に挙げられていた企業誘致の 5 つのポイントが挙げられている。この 5 つのポイントは尤もな指摘であり、IT 企業誘致促進に留まらず、観光や移住の促進にも効果を見込めるポイントである。企業誘致政策において、税制上の優遇措置や各種奨励金は一般的には期間が限定されている。この限定期間経過後、誘致した企業が白浜町に引き続き留まるのか、撤退するのか、規模拡大を行うのか、それとも縮小するのか、明らかになる。今後、このような企業の意思決定から白浜町の潜在的特徴点を探索する。そのためにひとまず本稿において、誘致制度の概要を記す。参考として白浜町に進出した IT 企業を表 2 に掲載する。

表 2. 白浜町に進出した IT 企業

進出年度	会社名	白浜町の事業所名	事業内容
2015	(株) セールス フォース・ジャパン	白浜オフィス	クラウドアプリケーション及びクラウドプラットフォームの提供
2015	クオリティソフト (株)	本社 白浜町	クラウドサービスとパッケージソフトウェア製品の開発及び販売業務 ドローンソリューション関連事業
2016	NECソリューション イノベータ (株)	白浜センター拠点	システムインテグレーション事業 サービス事業 基盤ソフトウェア開発事業 機器販売
2017	(株) ピィキューブ	サテライトオフィス	Web 会議システムの企画・開発・販売・保守・運用
2018	we (株)	和歌山支社	地方創生・宿泊事業・飲食事業・飲食関連BPO（予約受電・採用・マーケティング）

2018	(株) ウフル	白浜オフィス	システムインテグレーション事業 マーケティングクラウド事業 パブリッククラウド事業 データアナリティクス開発事業 クリエイティブ事業 IoTソリューション事業
2020	(株) Office Concierge	白浜オフィス	建設業界向け業務統合システムの開発販売及び運用保守
2020	(株) SAKURUG	さくLab 兼 白浜オフィス	クリエイティブテクノロジー事業 リクルーティングエージェンシー事業
2020	(株) スマサポ	和歌山白浜オフィス	不動産管理業界に向けた複数ソリューション提供とアプリを活用したDX推進事業
2020	(株) HACARUS	その他拠点	AIを用いた外観検査ソリューション 労働安全支援サービス
2021	(株) Relic	Growth Studio @Shirahama	イノベーションマネジメント・プラットフォームの提供 ネットワーク型クラウドファンディング構築サービスの提供 新規事業/イノベーション専門メディア「Battery」の提供 オープンイノベーション支援ソリューション 「asta*ENjiNE」の提供他
2022	(株) 網屋	和歌山セキュリティセンター	セキュリティの総合プロバイダ
2023	(株) Pictoria	白浜オフィス	VTuber関連事業と最新のAI技術を活用したAITuber事業、Web3事業をグローバルに展開し、自社開発のIP
2023	(株) Respawn	白浜ベース	IT人材を派遣するSES事業やWebシステム開発業務

出所) わかやま × ICT (<https://ritti.pref.wakayama.jp/ict/>) より  
IT 企業と推測できる会社を筆者の推測で抜粋し作成

#### IV. 1 IT 企業誘致のポイント

「IT Business Office In Shirahama<sup>10)</sup>」によれば、東京からの距離感、和歌山県の奨励金制度、全国有数のリゾート、耐災害ネットワーク、町のサポートの5点を白浜町がIT企業から「選ばれる理由」として挙げている。

「東京からの距離感」として羽田空港から約60分、南紀白浜空港から5分から10分程度の短時間でオフィスや街中を訪れることが可能である点である。空港の存在並びに白浜町内での優れた立地環境は企業誘致において強みである。「和歌山県の奨励金制度」としては、一企業で最大累計限度額3億円に及ぶオフィス賃料や航空運賃などの補助制度が整備されている。「全国有数のリゾート」のポイントは、伝統ある名湯を有し、ハワイのワイキキ・ビーチと姉妹浜提携を有する夏の観光地白良浜があり、熊野古道のある紀伊半島が世界的旅行誌にて訪れるべき地域に選出されている点である。また、「耐災害ネットワーク」というネットワークシステムを挙げている。国の機関と実証実験を行い、本格稼働を開始した。災害においても通信を確保するだけでなく、平時は観光に利用する。この仕組みの存在だけでなく、このようなIT技術を地域に取り込む白浜町の姿勢や活動が、更なる誘致促進に貢献するのであろう。「町のサポート」とは目にみえるサポートというよりも、進出後も継続的に行なわれる、社員移住後のサポートの実施である。以下、和歌山県の奨励金制度、耐災害ネットワークそして町のサポートに関して、更に解説を加える。

## IV. 2 和歌山県の奨励金制度

和歌山県庁商工観光労働部企業政策局企業立地課のポータルサイト<sup>11)</sup>によれば、情報関連事業を行う企業で誘致対象要件および交付要件を満たした場合、以下のような奨励金に応募が可能となる。ここで情報関連事業とは、日本標準産業分類（平成 25 年総務省告示第 405 号）の中分類の情報サービス業若しくはインターネット附随サービス業に属する事業又は日本標準産業分類の中分類の映像・音声・文字情報制作業、専門サービス業（他に分類されないもの）、技術サービス業（他に分類されないもの）、広告業若しくはその他の事業サービス業に属する事業のうちデジタルコンテンツを制作する事業をいう。

### 雇用奨励金

(新規地元雇用者数+転入雇用者数) × 30 万円 (3 年間適用)

### 立地奨励金

投下固定資産額等 × 30%

※新規立地に係る投下固定資産額等が 1,000 万円以上である場合

### 通信補助金

通信回線使用料 × 50% (3 年間適用)

### オフィス賃借補助金

賃借料 × 50% (3 年間適用)

### 航空運賃補助金

東京～南紀白浜空港 航空運賃 × 50% 又は 6,000 円/回のいずれか高い方 (3 年間適用)

東京～関西空港間 3,000 円/回補助 (3 年間適用)

### 人材確保補助金

(1) 求人広告費 × 50% (1 年間適用)

(2) 人材紹介手数料等 × 50% (1 年間適用)

(3) インターネットによる求人情報・求職者情報提供 (人材データベース等)

サービスの利用料 × 50% (1 年間適用)

誘致対象企業の要件は以下のように定めている。

正社員数 21 人以上

直近決算期の年間売上高が正社員 1 人あたり 1,200 万円以上等

交付要件には、以下の条件が付されている。

操業開始後 1 年後に雇用者数 (※) が 3 人以上 (和歌山市は 5 人以上)

※雇用者数：新規地元雇用者と転入雇用者の総数

一企業の奨励金の累計限度額は、新規地元雇用者と転入雇用者の総数が 20 人未満の場合奨励金の累計限度額は 1 億円、20 人以上 30 人未満の場合は 2 億円、30 人以上の場合は 3 億円となる。

白浜町による半島振興法、地域再生法、中小企業等経営強化法による白浜町の固定資産税

等の優遇措置は例えば和歌山県企業立地ガイド<sup>12)</sup>などで参照可能である。ここでは記載を省略する。

[注]

- 1) 白浜町は、和歌山県の南部に位置し、西側は太平洋、紀伊水道に面するとともに、東側は紀伊山地がそびえる。黒潮の影響を受け、一年を通じて穏やかな気候に恵まれ、海と山の自然が豊かである。町内にある白浜温泉は有馬温泉や道後温泉と日本三古湯のひとつに数えられる温泉郷である。  
白浜町への主要な交通手段としては、紀勢自動車道、JR 紀勢本線そして南紀白浜空港を使う空路がある。紀勢自動車道を使う場合、google map の案内によれば、立命館大学大阪いばらきキャンパスから白浜町役場まで、近畿自動車道を経るコースで、約 2 時間半、172km となる。JR を利用する場合は、大阪駅から白浜駅まで特急くろしおで約 2 時間 30 分前後である。また、南紀白浜空港は東京羽田空港と往復 3 便（2024 年 1 月 31 日現在）が就航しており、約 1 時間 15 分のフライトである。
- 2) 白浜温泉街活性化構想推進計画  
(<http://www.town.shirahama.wakayama.jp/kanko/1462841765154.html>) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 3) ナイトタイムエコノミー推進に向けたナレッジ集  
(<https://www.mlit.go.jp/common/001279567.pdf>) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 4) アドベンチャーワールドは株式会社アワーズにより運営されている動物園、サファリパーク、水族館、遊園地を擁する複合型テーマパークである。和歌山県白浜町に立地する。
- 5) アドベンチャーワールド ナイトサファリ (<https://aws-night-safari.com>) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 6) SHIRARAHAMA LIGHT PARADE (<https://shirarahama-light-parade.jp>) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 7) 白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画  
(<http://www.town.shirahama.wakayama.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/21/hattenk.pdf>) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 8) 歴史的資源を活用した観光まちづくり官民連携推進チームが確認した取り組み  
([https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/jirei\\_210426.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/jirei_210426.pdf)) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 9) 歴史的資源を活用した観光まちづくり官民連携推進チームの歴史的資源を活用した観光まちづくり成功事例集  
([https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/202003\\_02.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/202003_02.pdf)) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 10) IT Business Office In Shirahama  
([https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/telework\\_suishin\\_kentoukaigi/pdf/210208\\_shiryou4.pdf](https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/telework_suishin_kentoukaigi/pdf/210208_shiryou4.pdf)) 2024 年 2 月 1 日最終アクセス
- 11) 和歌山県庁商工観光労働部企業政策局企業立地課のポータルサイト

- (<https://ritti.pref.wakayama.jp/ict/support/>) 2024年2月1日最終アクセス
- 12) 和歌山県企業立地ガイド ([https://ritti.pref.wakayama.jp/guide/city\\_yugu/#p23](https://ritti.pref.wakayama.jp/guide/city_yugu/#p23)) 2024年2月1日最終アクセス

[参考文献]

- 国土交通省官公庁観光資源課、『ナイトタイムエコノミー推進に向けたナレッジ集』、国土交通省 website、2019年、<https://www.mlit.go.jp/common/001279567.pdf>、2024年2月1日最終アクセス
- 白浜町観光課、『白浜温泉街活性化構想推進計画』、白浜町 website、2016年、<http://www.town.shirahama.wakayama.jp/kanko/1462841765154.html>、2024年2月1日最終アクセス
- 白浜町、『白浜町（日置川地域）過疎地域持続的発展計画』、白浜町 website、2021年、<http://www.town.shirahama.wakayama.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/21/hattenk.pdf>、2024年2月1日最終アクセス
- 白浜町、地方創生テレワーク推進に向けた検討会議、『IT Business Office In Shirahama』、内閣官房内閣府総合 website、2021年、[https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/telework\\_suishin\\_kentoukaigi/pdf/210208\\_shiryoku4.pdf](https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/telework_suishin_kentoukaigi/pdf/210208_shiryoku4.pdf)、2024年2月1日最終アクセス
- 内閣官房、『歴史的資源を活用した観光まちづくり』、内閣府 website、[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/jirei\\_210426.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/jirei_210426.pdf)、2024年2月1日最終アクセス
- 内閣官房歴史的資源を活用した観光まちづくり官民連携推進チーム、『歴史的資源を活用した観光まちづくり成功事例集』、内閣府 website、2020年、[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/202003\\_02.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport/file/202003_02.pdf)、2024年2月1日最終アクセス
- 和歌山県庁商工観光労働部企業政策局企業立地課、『わかやま×ICT』、和歌山県 website、<https://ritti.pref.wakayama.jp/ict/support/>) 2024年2月1日最終アクセス
- 和歌山県庁商工観光労働部企業政策局企業立地課、『和歌山県企業立地ガイド2023-2024』、和歌山県 website、[https://ritti.pref.wakayama.jp/guide/city\\_yugu/#p23](https://ritti.pref.wakayama.jp/guide/city_yugu/#p23)、2024年2月1日最終アクセス

# Extracting Regional Revitalization Plans of Shirahama Town, Wakayama Prefecture: Development of a Method of Regional Analysis Applied Progress Reports of Regional Revitalization Plans

Toshiyuki Hattori

## Abstract:

This study showed the candidate regional revitalization plans for developing a simplified analytical method for regional development research. The method comprises three phases: analyzing the achievement of a specific development plan, identifying the broad causes of its results, and clarifying the background of these causes. These steps may be similar to other established methods. However, this simplified analytical method will use the results of the existing regional development plans as material for regional character extraction. They are in that Using existing plan review can efficiently help identify potential characteristics of the subject addressed. Taking the development plans of Shirahama Town, Wakayama Prefecture, as study cases, these studies are an introduction and explanation of the plans and measures that can be formulated to promote tourism and attract IT companies for regional development. The attempts to extract characteristics will be progressed in future research.

Keywords: Regional revitalization plans, Regional characteristics, Shirahama Town